

緊急避妊方法解説書

監修：北村邦夫(一般社団法人 日本家族計画協会 会長)



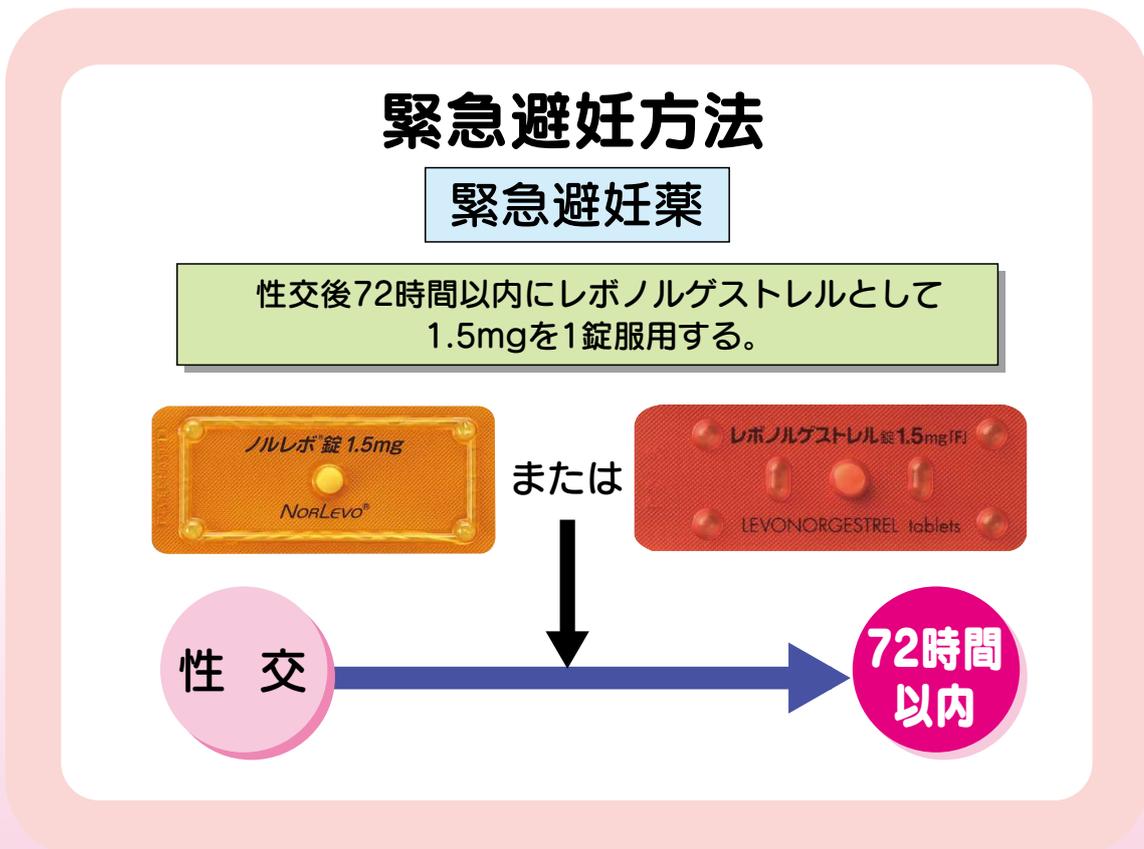
緊急避妊方法

1 緊急避妊薬を用いた場合

- 『緊急避妊薬』は白色の錠剤で、1シートに1錠（1回分）が収められています。性交後72時間以内に、1錠を服用します。
- コンドームの破損などのアクシデントがあったときの緊急避妊方法として有効です。

(1) 緊急避妊薬の飲み方

- 性交後72時間以内に1錠服用。服用する時刻や時間帯は特に定められていませんが、なるべく早く服用。



- 緊急避妊薬の服用方法と銅付加子宮内避妊具を用いた緊急避妊方法について解説したものです。
- 緊急避妊方法とは、避妊に失敗した又は避妊をしなかった性交後に、緊急的に用いる方法であって、人工妊娠中絶法ではありません。
- 完全に妊娠が回避できるものではありません。

(2) 服用後の注意

- 緊急避妊薬を服用した後の性交で妊娠する可能性がありますので、服用後は適切な避妊を行って下さい。
- 緊急避妊薬を服用した後に、人によっては不正子宮出血や頭痛、吐き気、倦怠感、眠くなるなどの症状があらわれることがあります。
- 服用後2時間以内に吐いてしまったときは、すぐに追加で1錠飲みます。2時間以上たってから吐いてしまった場合は、追加する必要はありません。
- 月経のような出血（消退出血）があってもはじめて妊娠を否定できますが、出血の有無にかかわらず、医師の指導のとおり再度来院して診察を受けて下さい。

POINT

* 緊急避妊薬は、日常的に使う避妊方法としてはふさわしくありません。あくまでも緊急手段として心得ておきましょう。

2 銅付加子宮内避妊具を用いた場合

- 妊娠経験のある女性であれば、緊急避妊方法として銅付加子宮内避妊具を使う場合があります。
- 性交から120時間（5日間）以内に銅付加子宮内避妊具を挿入することで妊娠を防止することができます。
- 銅付加子宮内避妊具を挿入した場合には、軽い痛みや少量の出血が起こることがあります。
- 銅付加子宮内避妊具を緊急避妊目的で使用した場合の利点は、目的が達成された後も、そのまま避妊方法として使い通すことができることです。
- 銅付加子宮内避妊具は、母体保護法指定医師である産婦人科医のもとで、診察を受けたうえで装着するのが原則です。

参考文献：日本産科婦人科学会編「緊急避妊法の適正使用に関する指針（平成28年度改訂版）」
(https://www.jsog.or.jp/activity/pdf/kinkyuhinin_shishin_H28.pdf)

